



脊椎脊髄 疾患の名医



医師名(敬称略)	所属医療機関	得意な治療	診察において取り組んでいること
中下 健	札幌整形循環器病院 整形外科	椎間板性腰痛、坐骨神経痛、レーザー治療、脊椎内視鏡、慢性関節リウマチ	小侵襲治療。また、手・肩の外科、マイクロサージャリー、脊椎内視鏡、慢性関節リウマチを専門としています。
	北海道札幌市		
出身大学	岩手医科大学医学部		
竹林 庸雄	札幌円山整形外科病院 整形外科	顕微鏡を用いた痛みが少ない頸椎・腰椎手術	MRIによる正確な画像診断と、術後の痛みが少ない低侵襲手術を行うことで、早期の社会復帰を目指しています。
	北海道札幌市		
出身大学	札幌医科大学医学部		
高畑 雅彦	北海道大学病院 整形外科	頸椎手術、脊柱靭帯骨化症手術、脊椎腫瘍手術、骨粗鬆症	指定難病である脊柱靭帯骨化症に対する治療、顕微鏡や術中リアルタイム CT 撮影装置を用いた安全性向上を目指した頸椎手術、骨粗鬆症に対する個別化薬物治療、がんの脊椎転移に対する姑息的治療／根治的治療。
	北海道札幌市		
出身大学	北海道大学医学部		
織田 格	北海道整形外科記念病院 整形外科	脊椎（頭蓋頸椎移行部から腰仙椎）の再建術、低侵襲腰椎固定術	患者適合型ガイドや神経モニタリングなどの手術支援システムを取り入れ、難易度の高い手術でも可能な限り安全に行えるように取り組んでいます。患者さんへの分かりやすい説明を心掛けています。
	北海道札幌市		
出身大学	北海道大学医学部		
伊東 学	北海道医療センター 整形外科	脊柱変形、側弯症、脊椎感染症、透析脊椎症、骨粗鬆症	一般の医療機関で治療が難しい難治性脊椎疾患に対し、低侵襲手術からハイテク手術まで、総合医療を展開して治療しています。
	北海道札幌市		
出身大学	北海道大学医学部		
金山 雅弘	函館中央病院 整形外科・脊椎センター	腰椎の疾患全般、骨粗鬆症・脊椎骨折、成人脊柱変形	正しく診断し、エビデンスに基づいて適切な治療法を選択することを第一に考えます。手術の技術があっても診断を間違えば治療は失敗します。病態に合わせてできるだけリスクの少ない治療を心掛けています。
	北海道函館市		
出身大学	北海道大学医学部		
百町 貴彦	我汝会えにわ病院 整形外科	頸椎 / 腰椎椎間板ヘルニア、頸椎症、腰部脊柱管狭窄症、骨粗鬆症	最新の知見・技術を取り入れながら、既存の方法を含めた幅広い選択肢の中から患者さまお一人おひとりに最善と考える治療法を提案。手術においては、5000例の執刀経験から安全を第一に質の高い技術で提供します。
	北海道恵庭市		
出身大学	—		
富田 卓	青森県立中央病院 整形外科	脊椎内視鏡手術、低侵襲脊椎手術	保存的治療も含めた低侵襲な治療を心掛けており、手術となった場合にも内視鏡手術をはじめとする侵襲の小さな治療に取り組んでいます。
	青森県青森市		
出身大学	弘前大学医学部		
土井田 稔	岩手医科大学附属病院 整形外科	頸椎、胸椎、腰椎の慢性疾患への低侵襲の除圧術と固定術	患者さんの症状と画像所見を詳細かつ厳密に解析した上で最良で最適な治療方針を立てています。その治療方針に基づき、患者さんにとって最小侵襲で最高の治療成果が得られる術式を選択し、実行しています。
	岩手県紫波郡矢巾町		
出身大学	—		

いざというときに頼りになる 整形外科の 名医 312人

徹底
独自調査!

整形外科の専門分野で活躍し、「名医」として評判の高い医師について独自の調査を実施。その結果をもとに、全国の整形外科の名医312名をリストとしてまとめ、掲載しています。各分野を代表する方々ですが、医師と患者さんには相性があり、名医と呼ばれる医師の治療が患者さんの満足がいく治療とならないこともあります。本リストはあくまでも、ご自身にとって最適な医師を探す際の目安としてください。

※掲載内容は2022年4月現在の情報に基づきます。掲載情報は変更の可能性があるため、受診前に直接医療機関にご確認ください。



※本リスト掲載の医師は複数の専門分野を得意としていますが、今回は1つのみ挙げていただいています。

脊椎脊髄疾患
の名医
P59

股疾患の名医
P71

ひざ疾患
の名医
P77

肩肘手疾患
の名医
P83

足疾患の名医
P85

腫瘍の名医
P86

リウマチ疾患
の名医
P88

小児整形外科
の名医
P89

スポーツ疾患
の名医
P90

掲載する医師の選定について

編集部では下記の点や、取材先からの情報などをもとに各医師にアンケート調査を行いました。その結果から掲載する医師を選定し、疾患ごとに順不同で掲載しています。

- 厚生労働省「令和2年度DPC導入の影響評価に係わる調査『退院患者調査』」における実績
- 学会などの要職を務められる医師、もしくはガイドラインの作成や公的機関の調査・研究などに携わり、専門分野において国内で中心的役割を担う医師
- 臨床において、高い技術と豊富な実績を持ち、現役医師として活躍中であること

リスト掲載にあたって

リストから漏れている医師の情報や、リストへのご意見などは、メールまたはFAXにてご連絡ください。なお、情報の信頼性確保のため、匿名でのご意見はご遠慮ください。
医療新聞社 編集部 E-mail:info@jmnn.jp FAX:03-6279-3139